

ただいま!!が似合う宿

小千谷ふるさとの丘ユースホステル

新潟県のほぼ中央、小千谷市の農村集落を見下ろす高台にあるユースホステル。明治時代に建てられた古民家に手を加えた、落ち着いた和のたたずまいが特徴だ。敷地内には広大な庭と蔵があり、周囲にはありのままの自然が広がっている。四季を彩る草花にも癒されながら、山里での非日常をゆったりと満喫できる。



新潟県小千谷市小栗山(寺沢)2063番地

電話：0258-59-2951 URL: <https://ojiya-yh.com/>

Youth Hostel Pick up

築120年の古民家で 人と自然の温もりに包まれる宿

小千谷ふるさとの丘ユースホステル

交通の要衝として栄え、 独自の文化が息づく街・小千谷

新潟・中越地方の小千谷市。中山道から分かれる三国街道や、信州からの善光寺街道などいくつかの街道の結節点だったことから、宿場町として発展した。信濃川水運の船着場も擁する交通の要衝だった一方で、冬の豪雪と豊かな自然に裏打ちされた、独自の文化が発祥した街でもある。約200年前の江戸時代に生み出され「泳ぐ芸術品」「生きた宝石」ともてはやされる日本の国魚「錦鯉」。涼やかな肌触りを特徴とし、ユネスコの無形文化遺産にも登録されている「小千谷縮(ちぢみ)」などは誰もが知るところだ。

多彩な催しも小千谷の魅力。越後三大花火のひとつ「片貝(かたかい)まつり」(毎年9月9日・10日開催)では、打ち上げ高度・開花直径と

もに800mを誇る、世界最大級の四尺玉が打ち上がる。雪原に色とりどりの気球が舞い、夜は花火との競演も楽しめる「おぢや風船一揆」(毎年2月下旬開催)は、地域に春の訪れを告げる風物詩となっている。

今回訪れたのは、そんな小千谷市の東山と呼ばれる山あいの地区にある、小千谷ふるさとの丘ユースホステル。築120年を数える建物は、もともと庄屋の住宅だったといわれ、太い柱や梁が館内のそここで見られる。2階にある客室は、和室が3部屋・洋室が1部屋。1階の談話室の続きには日当たりの良い縁側もあり、ゆっくりとした時間が流れる。

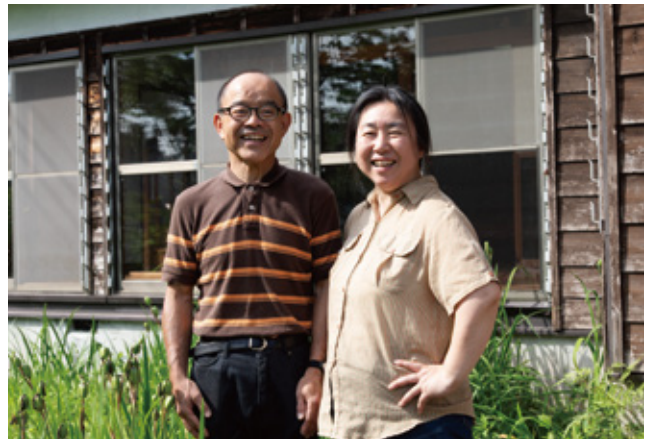
2002年にこのユースホステルをオープンしたのが、マネージャーの南忠詞(みなみ・ただし)さん。妻の真己子(まきこ)さんと共に、家族のような温かさで訪れる人をもてなしてきた。



どこか懐かしい雰囲気のある談話室は、ゲストたちの憩いの場。



早めの予約でグループや家族で一室利用できるのも嬉しい。(※一室利用は要問い合わせ)



2人の人柄に惹かれてリピーターになる人も多い。

自転車旅行で巡ったユースホステルで、貴重な体験が待っていた

南さんに学生時代の旅の思い出を伺うと、初めての自転車旅行の時のことを話してくれた。きっかけは、たまたま手に取った自転車雑誌。ユースホステルに泊まりながら、愛用の自転車で各地を巡る旅行記を読んで心が躍った。地元・大阪の自転車店で、ランドナーと呼ばれる旅行用の自転車を購入し、大学3年生の終わりの春休みに紀伊半島を巡る旅を計画した。

「500kmほどの道のりで、各地のユースホステルを4泊する旅行でした。最後に泊まったのが、和歌山・田辺の旧扇ヶ浜ユースホステル。夜に宿泊者のお姉さんとマネージャーのおばあちゃんと3人で話していたら、飛び込みで泊まりにきた私よりも若いお兄ちゃんも加わっ

てすぐ会話が盛り上がって…今でも楽しい思い出になっています」
出会いがある自転車旅行に魅了され、その後も各地へ旅をするようになった南さん。大学卒業後は自転車部品・釣り具メーカーで研究職として多忙な毎日を送るようになった。

「就職後は長期の旅行もできず、悶々とする日々で…。3年目に思い切って仕事を辞めて、日本一周の旅に出ることにしたんです。9月に京都の舞鶴からフェリーに乗って北海道の小樽へ向かい、青森を経由して、11月には岩手の遠野ユースホステルへたどり着きました。居心地が良くて長居してしまって、ある日朝起きると外は一面の雪景色。しばらく自転車では動けないと困っていると、そのまなネージャーに『うちを手伝わないか?』と誘われて、そのまま春まで(笑)。日本一周旅行に行くと言っていて出てきましたけど、あまりに帰りが遅いので勤当されかけて(笑)、日本一周は諦めて地元に戻りま

した」

その後、長野県に移り住んだ南さんは、地元企業で働きながら休暇を利用してランドナーでの自転車旅行を続け、各地のユースホテルを巡った。

「 TENTを積んで行く割には、いつもユースホテルに泊まっていたね。遠野ユースホテルにもちょくちょく手伝いに行っていました。30代になって『どっぷり田舎暮らしをしながら、自分のユースホテルをやってみたいな』という思いが芽生えてきたんです」

2年がかりでオープンさせた 「手づくり」のユースホテル

「ユースホテルにできそうな物件を探中『小千谷にいい物件がある』と不動産屋さんに紹介されて、見に来たのがこの建物でした。古民家でユースホテルをやりたいという思いがありましたし、ここは住宅としての設備が整っていたので好条件。周囲の自然環境もすごく気に入ったので、ほとんど即決でした。物件を手に入れて移り住んでからは、改装工事に着手。気にかけてくれたご近所の皆さんから、道具を貸していただいたり、アドバイスを受けたりしながら進めました」

増築のための基礎づくりに始まり、外壁の張り替えなどを含め、工期は2年に及んだ。思いを込め、汗を流して完成した「小千谷ふるさとの丘ユースホテル」がオープンしたのは2002年の4月だった。

「最初のうちは見よう見まね。ゴールデンウィークの繁忙期には、かつてユースホテルでできた友人たちが手伝いを買って出てくれました。そのうちリピーターも増えて、お客さまとのつながりも生まれるようになりました」

遠野ユースホテルで出会った真己子さんという伴侶を得て、運営も軌道に乗り始めた矢先の2004年10月、小千谷市内で震度6強を観測する新潟県中越地震が起こった。震度6クラスの大きな余震も繰り返し起こり、小千谷ふるさとの丘ユースホテルも半壊。南さ



ある日の夕食。豚の生姜焼きに名物のへぎそば、具だくさんの味噌汁と小鉢が並ぶ。気取らない家庭料理に込められた“こだわり”は、ぜひ現地で体感してほしい。



一日の疲れを癒すお風呂も忠詞さんの手作りというから驚きだ。



日当たりのいい縁側からは、四季折々の小千谷の風景を眺めることができる。



客室の天井には100年以上もこの家を守り続けている立派な梁が。

んの自宅は全壊し、仮設住宅への入居を余儀なくされた。

「あれだけの揺れに見舞われても、ユースホテルの梁や柱は無事で建物を守ってくれた。『再開しないわけにはいかない』と、妻と2人で壊れたところを直して、壁を塗って…なんとか翌年(2005年)の年末には営業を再開することができました」

旅する人が集い、語らう 「ふれあいの場」であり続けたい

苦難を乗り越え、地域の人々や多くのリピーターと共に20年の歴史を刻んできた小千谷ふるさとの丘ユースホテル。ホステラーの利用の仕方はさまざまで、自転車やバイクでの旅の途中に訪れたり、長期滞りして宿でゆっくり過ごす人もいるのだとか。どこかほっとするアットホームな雰囲気、訪れる人に安らぎを与えている。

「私がユースホテルを好きになったのは、宿でいろんな人が出会い、ふれあえる場所だったから。夜は食堂に集まる『お茶の時間』を設けたりして、雑談やコミュニケーションの機会を大切にしています。そして、周辺の豊かな自然もこの宿の魅力。春には可憐に咲くカタクリの花、夏の夜は池や川で舞い踊るホタルが見られます。カモシカをはじめ、野生動物にも出会えますよ」

もう一つ、ホステラーに人気なのが、手作りの料理。南さんの畑で育った旬の野菜や、魚沼産のコシヒカリ、小千谷名物のへぎそばなどが食卓に上る。

「豪華ではないかもしれないけれど、きちんとした食材を使ったおいしい料理を食べていただきたいと思っています。お米は生産者の方から直接買って使う分だけ精米していますし、お味噌汁もお出汁から取ったもの。一品一品しっかり手をかけたものをお出ししています。帰り際に『ごちそうさまでした』とおっしゃる方も多いですね。うちは、食堂じゃあないんだけどな(笑)」

そう言って微笑む南さんに、これからの展望を聞いた。

「ユースホテルは“ふれあいの場”。これからも、そこを大切にしていければと思います。いろんな人が集まって、旅を楽しむ。そんな宿であり続けたいですね」

A さつまいも農カフェきらら



旬の小千谷野菜と新潟県産さつまいもを楽しめるカフェ。「焼きイモソフトクリーム」(480円～)をはじめ、スイーツにランチ、ドリンクも充実。代表新谷さんのさつまいも愛が詰まった、ここでしか味わえないメニューを楽しんで。

小千谷市桜町2495-1
TEL:0258-94-5995

B 元祖小千谷そば 角屋



つなぎに布海苔(ふのり)を使った小千谷名物・へぎそば。1889年創業の「元祖小千谷そば 角屋」は、その伝統の技を現代まで受け継いできた。コシが強く歯ざわりのよい「ひきたて、打ちたて、ゆでたて」のへぎそばを堪能しよう。

小千谷市桜町4992
TEL:0258-83-2234

C 小千谷市錦鯉の里



小千谷で発祥した錦鯉の魅力を知るなら、「小千谷市錦鯉の里」へ。約2,000㎡の広大な日本庭園と観賞棟で優雅に泳ぐ錦鯉の姿は、まさに圧巻。資料展示室では、小千谷の地で育まれてきた錦鯉の歴史を学ぶこともできる。

小千谷市内1-8-22
TEL:0258-83-2233



小千谷市ってこんなところ!

小千谷市は、新潟県中部に位置する人口3万4,000人あまりの都市。市域を信濃川が南北に貫き、豊かな自然と田園地帯が広がる。日本有数の豪雪地帯としても知られ、市内の道路には流雪溝や消雪パイプが整備されている。今回紹介したスポット以外にも、桜の名所・船岡公園や四季折々の花が咲き誇る山本山高原など、多くの見どころがある小千谷市。関越自動車道・小千谷 ICまでは東京方面(練馬 IC) から約2時間半、新潟市方面(新潟西 IC) から約50分ほどの道のりだ。

小千谷市おすすめ SPOT

D 小千谷織物工房 織之座



「織之座」は、気軽に小千谷の織物に触れられる体験型ギャラリー。小型織機を使った「はた織り体験」では、オリジナルコースター(1,000円)などを織る。旅の思い出に、自分だけの織物づくりに挑戦してみよう。

小千谷市内1-8-25
小千谷市総合産業会館サブプラザ1F
TEL:0258-83-2329

E 牛の角突き(小千谷闘牛場)



国の重要無形民俗文化財「牛の角突き」は、1000年以上続く地域の伝統行事。小千谷闘牛場で、毎年5月から11月にかけて月1回程度開催される。勢子(せこ)のかけ声が響き渡る中で、牛たちがぶつかり合う取り組みは迫力満点だ。

小千谷市小栗山2453
TEL:0258-83-3512
(小千谷市役所にぎわい交流課)

F 金倉山



トレッキングなら、ユースホテルからほど近い小千谷の最高峰・金倉山(581m)がおすすめ。登山道には、毎月17日に開帳される「木喰観音堂」や、錦鯉の棚池などを一望できるスポットがあり、山頂からは越後平野を望むことも。

小千谷市小栗山
TEL:0258-83-3512
(小千谷市役所にぎわい交流課)

読者
プレゼント

抽選で ペアご宿泊券(1泊2日)1名様にプレゼント!

ご応募は日本ユースホテル協会ホームページの専用お申し込みフォームから!

<http://www.jyh.or.jp/hmq> 応募〆切:2023年12月末日

※当選者にはご応募時にご登録いただいたメールアドレス宛にご連絡いたします。
@jyh.or.jpからのメールが受信できるように設定をお願いいたします。

日本ユースホステル協会は日本国内にユースホステルを設置・運営すると共に、国際ユースホステル連盟(Hostelling International)や各国のユースホステル協会と協調し、知見を広める「旅」を促進する活動を行っています。

こどもはおとなに。
おとなはこどもに、
なれる場所。



Hostelling Magazine vol.34



Cover Interview
大沢たかお
人生をもっと
色鮮やかにしたいなら

P.02



Youth Hostel Pick up
小千谷ふるさと
ユースホステル
築120年の古民家で
人と自然の温もりに包まれる宿

P.08



Hostelling Magazine
× 地球の歩き方
今こそ、行きたい！
王道のパリ
フランス

P.12



PLAtZ

P.16



おしえて! 旅GIRL

P.17



松島むうの
晴れときどき旅びより

P.18



YH-GUIDE
ユースホステルガイド
関東/北信越地方

P.20



Hostelling Magazine vol.34
まとめてダウンロード

※本誌の情報は2023年9月20日現在のものです。変更になる場合がありますので、お出かけの前に現地にお確かめください。

発行所 一般財団法人日本ユースホステル協会 編集・発行人 寺島 真

TEL.(03)5738-0546 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1国立オリンピック記念青少年総合センター内

※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。